# ■社会科　【公民としての資質・能力の基礎を育む子供の育成】

日　時　令和２年７月１８日（土）　　　　　生　徒　２年Ｃ組　男子１７名　女子１５名　計３２名
授業場　２年Ｃ組教室　　　　　　　　　　　授業者　眞　島　良　太

## １．単元名

「第２章　世界からみた日本のすがた」

## ２．単元の目標

⑴日本の地域的特色を自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信を基に、それぞれの特色を説明することができる。
⑵日本の地域的特色を自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に基づく地域区分に着目して、それらを関連づけて今後の日本社会において取り組むべき課題について多面的・多角的に考察し、説明することができる。
⑶日本の地域的特色について、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に着目して追究し、よりよい社会の実現に向けた自らの考えをもつことができる。

## ３．評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ア　日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどを基に、日本の自然環境に関する特色を説明することができる。<br>イ　少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を説明することができる。<br>ウ　日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を説明することができる。<br>エ　国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結びつきや日本と世界との結びつきの特色を説明することができる。<br>オ　日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。 | ア　日本の地域的特色を自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に基づく地域区分に着目して、それらを関連づけて今後の日本社会において取り組むべき課題について多面的・多角的に考察し、表現している。 | ア　日本の地域的特色について、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に着目して、よりよい社会の実現に向け、根拠を基に追究しようとしている。 |

## ４．単元のデザイン（全１２時間）

| 時 | ○学習活動　・学習内容 | 手立て | 評価の観点 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 知 | 思 | 態 |
| 1 | ○世界の地形の特徴として造山帯と安定した大陸があることを説明する。<br>・環太平洋造山帯とアルプス・ヒマラヤ造山帯によって地震や火山活動が起こっていることを確認する。<br>・世界には火山活動が少ない安定した大陸が存在することを確認する。 | ①　② | ア | | |
| 2 | ○日本の山地と海岸の特徴について説明する。<br>・日本列島はフォッサマグナを境にして東西で分かれており、国土の４分の３は山地があることを確認する。<br>・岩石海岸や砂浜海岸、リアス海岸など変化に富む海岸線について確認する。 | | ア | | ア |
| 3<br>本<br>時 | ○日本の川と平野の特徴について説明する。<br>・日本の川は世界の川と比べて短く、傾斜が急であるという特徴があり、平野が形成されることを確認する。<br>・川の作用によって扇状地と三角州が形成されそれぞれがどのように土地利用されているかを確認する。 | | ア | | |
| 4 | ○日本の気候がどのような要素で区分されているか説明する。 | | ア | | |

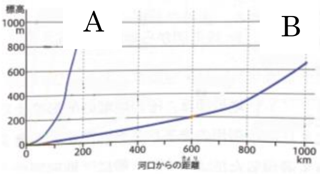
| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | ・日本の気候は季節風などの影響により、日本海側の気候、太平洋側の気候、瀬戸内の気候、内陸の気候、北海道の気候、南西諸島の気候に分かれることを確認する。<br>・日本列島の大部分は温帯に属しており、梅雨や台風などの特徴があることを確認する。 | | | | |
| ５ | ○日本の自然災害が地形や気候とどのように関係しているか説明する。<br>・日本列島では地震、火山活動、津波、気象災害が起こることを確認する。 | ①パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する<br>「一か月後に、『日本の未来はどうあるべきか？』をテーマにした会議が開かれることになりました。あなたはその会議のメンバーに選ばれた研究者です。日本の地域の特色から現在の日本が抱える課題を踏まえて、日本の未来はあるべき姿について提言をすることになりました。提言に必要な資料や材料をそろえて提言を作成してください。」 | ア | | |
| ６ | ○災害から身を守る方法について説明する。<br>・ハザードマップをはじめとした災害予測の大切さについて確認する。<br>・自助、共助、公助の考え方を確認する。 | | ア | | |
| ７ | ○日本の人口の変動の背景とそれによって生じる課題を説明する。<br>・少子高齢化とその原因について確認する。<br>・少子高齢化がもたらす課題について確認する。 | | イ | | |
| ８ | ○日本の人口分布をもとに、過疎と過密の問題点について説明する。<br>・人口密度分布と過疎、過密の関係について確認する。<br>・過疎、過密の問題点について確認する。 | | イ | | |
| ９ | ○日本は資源を海外に依存しており、それに伴う発電方法の工夫を行っていることを説明する。<br>・原油、石炭、鉄鉱石などを海外に依存していることを確認する。<br>・日本の資源分布と発電方法の関係について確認する。 | ②生徒の立場や思考、根拠を可視化することで生徒同士の対話を促す | ウ | | |
| １０ | ○日本の産業と立地の関係について説明する。<br>・第一次産業、第二次産業の就業者数の減少と第三次産業の就業者数の増加の背景を確認する。<br>・それぞれの産業の立地の特徴を確認する。 | ①　② | ウ | | |
| １１ | ○日本の交通や通信の特徴について説明する。<br>・国内外の交通輸送の方法と時間距離の短縮について確認する。<br>・情報通信技術の発展と今後の社会について確認する。 | | エ | | |
| １２ | ○日本の未来はどうあるべきかをこれまでの学習を踏まえて考察したことを説明する。<br>・自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の視点からこれからの日本のあるべき姿について構想する。 | | | ア | |

## ５．本時の展開（３/１２）

(1) 本時の目標

短く急流である日本の川の特徴を基に、川の作用により堆積した土砂によって扇状地や三角州が形成され、それぞれどのように土地利用されているのか説明することができる。

(2) 本時の展開

<table>
<tr><th>学習活動　児童・生徒の姿<br>教師の働きかけ（○発問，△補助発問，□指示・説明）　手立て</th><th>【評価の観点】<br>◇評価の内容<br>・指導上の留意点</th><th>Zoom・ロイロノート</th></tr>
<tr><td>１　課題を把握する。<br>○（資料を提示しながら）日本の多くの川で見られるのはＡとＢどちらなのかな。<br><br><br>・Ａ：○人　・Ｂ：○人<br>○どうしてそう考えたのかな。<br>・急流で短い川が日本には多いからＡだと思う<br>・日本には信濃川などの長い川があるからＢだと思う<br> <br> <br>○川のはたらきによってできるものとして、扇状地と三角州があります。（資料を提示しながら）川の上流と下流にあるのはそれぞれどちらなのかな。<br>・山があるから扇状地（上の写真）は上流にできるのではないか<br>・海があるから三角州（下の写真）は下流にできるのではないか<br>○扇状地と三角州ではそれぞれどんな農業が行われているのかな。<br>・米かな　・果物かな　・この資料だけじゃわからないな<br>○では、地図帳を見て調べてみよう。<br>・最上川では扇状地にりんごを、三角州では米を栽培している<br>・富士川では扇状地にぶどうやもも、三角州では米を栽培している<br>・なぜその土地はそのように利用できるのかな</td><td>・世界と日本の特徴が表された代表的な川の比較を示す。<br>・A、B の考えを支える資料として地図帳 pp.139-140 を開いて根拠を示させる。<br><br>・扇状地の写真（上）と三角州の写真（下）を示す。</td><td>共有写真</td></tr>
<tr><td>２　扇状地と三角州で行われている農業と土地の特徴の関係について追究する。<br>扇状地では果物、三角州では米の栽培が多くされているのはなぜだろう？土地の特徴に着目するとどのように説明すればよいだろう？<br>・扇状地は山のふもとにあり、荒い土砂が積もってできる<br>・三角州は河口付近にできて、細かい砂や泥によってできる<br>○<u>他の川でも扇状地では果物、三角州では米を栽培しているのかな。</u><br>・信濃川では扇状地があるところにりんごやぶどう、三角州があるところに米を栽培している<br>・紀ノ川では扇状地があるところに柿やはっさく、三角州があるところに米を栽培している<br>・筑後川では扇状地があるところに梨、三角州があるところに米を栽培している<br>・さきほどわかったことは日本にある他の川でも同じことが言えそうだ</td><td>・地図帳から扇状地と三角州の土地利用について調べさせる。<br>・生徒が調べた内容を画面に提示させ、教師側でスクリーンショットを撮り、画面共有する。<br>・扇状地では果物を、三角州では米を栽培していることを整理する。<br>・ブレイクアウトルームを使って、土地の特徴とどんな関係があるか調べさせる。</td><td>ブレイクアウトルーム</td></tr>
<tr><td>３　本時の学習の振り返りと次時への見通しをもつ。<br>○ここまでの話を振り返ると、扇状地と三角州ではそれぞれどのように土地利用がされているといえるかな。<br>まとめ<br>日本全体の傾向として、扇状地は山のふもとにあり、荒い土砂が積もってできる地形で、果物を栽培している。また、三角州は河口付近にできて、細かい砂や泥によってできる地形で、米を栽培している。<br>○場所によって扇状地や三角州で栽培している作物に違いがあるのはどうしてなのかな。<br>・地形だけではない理由があるのか　・気候が関係しているのではないだろうか</td><td>【知識・技能】<br>◇資料を読み取り，考察したことをノートに記述している。<br>（観察，記述）</td><td></td></tr>
</table>

## ■社会科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

**社会科における Ls/Fs 育成のポイントは「市民性・地域参画力」**

### ＜社会科で目指す子供の姿＞

「リーダーシップ・フォロワーシップ」育成のため、社会科においては今年度、「市民性・地域参画力」の資質・能力の育成に焦点をあて、研究を進めていく。

社会科における「市民性・地域参画力」の中で、市民性は、本教科の目標にも示されている公民としての資質・能力と同義で示される場合が多い。公民としての資質・能力とは、「よく生きたい、こうありたいと自己実現を図っていく中で、他者とかかわりながら、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度」（内山、2016）と解されており、未来を創り上げるためには、自分たちが生活する身近な地域や社会に参画しようとする態度が欠かせない。よって、市民性は本教科の目標であり、地域参画力は市民性の中に含まれる資質・能力と見做すことができよう。

市民性・地域参画力は、知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を相互作用的に高めていくことで育成されていくものである。附属釧路小・中学校社会科では、これらの資質・能力を各領域や単元の中でバランスよく育成していく。

**社会科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て**

**① パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する**

**② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す**

### ① パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する

パフォーマンス課題とは、「現実の世界（実社会・実生活）からの挑戦や問題（または模した問題）において、様々な知識や概念、スキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な評価課題」（三藤・西岡、2010）のことである。例えば、歴史的分野の二度の世界大戦と日本の単元において「日本はなぜ戦争の道へと進んでしまったのか、これからの日本や世界はどのような考え方や行動をしていけばよいのか」という評価課題が挙げられる。単元の中核を子供が探究していくためにパフォーマンス課題を単元に組み込むことで、個々バラバラな知識や概念、スキルが関連付けられ総合されて、他の単元の学習へも転移可能な深い理解へと到達することができると考えた。さらに、子供が現実の世界（実社会・実生活）と向き合っていくことで、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度が育まれる効果も期待できる。

### ② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す

各単元で学習を行うにあたり、資料や自己との対話で得た情報をもとに自分の考えを表現する必要がある。平成 29 年度に実践した本教科の研究では、資料提示の工夫から子供の新たな視点を引き出す教師の働きかけとして 3 点について考察した。その実践と検証を踏まえ、今回は、子供が生み出した問いや予想、立場や根拠などを書き込み、学習効果があると思われる場面で書き込んだ資料を子供に提示することに視点をあてる。立場や思考、根拠を可視化することで、意見の対立や、立場を導く根拠の差異が可視化されて対話を行う子供の姿が引き出されることができるのではないかと考える。その際に、「他者の立場や根拠が何を重視しているのかに気付き、自己の考えがより明確になる」（峯、2011）効果が期待できる。実際には、是か非かのように立場が決まっている場合や、追究する視点が示されている場合等によって根拠や理由を問うのか、根拠や理由の下支えとなった視点や資料を問うのかなど分野や単元によって指導方法は変わってくる。子供がそれぞれ調べた視点で考えを述べ合うプロセスの中で、リーダーシップ・フォロワーシップが発揮され、多面的・多角的な考察が可能となるような実践を行っていく。

引用・参考文献

1）内山　隆、「共生への学び」、北樹出版、2016

2）三藤　あさみ・西岡　加名恵、「パフォーマンス評価にどう取り組むか」、日本標準、2010

3）峯　明秀、「社会科授業改善の方法論改革研究」、風間書房、2011

## ■本時で目指す生徒の姿

**今日の授業における「市民性・地域参画力」を高めるためのポイント**

本時では、前述したパフォーマンス課題を基に、日本における自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信などの視点から追究する過程で、日本の地域的特色を踏まえた課題と日本の未来を考察する上で、他者の考えを知ることで自らにはない視点を得て、それを基に自らの考えを構築しようとしている姿を引き出す。この姿が後に学習する日本の諸地域を追究する視点となり、多面的・多角的に追究しようとしている姿につなげる。

## ■本時のポイント

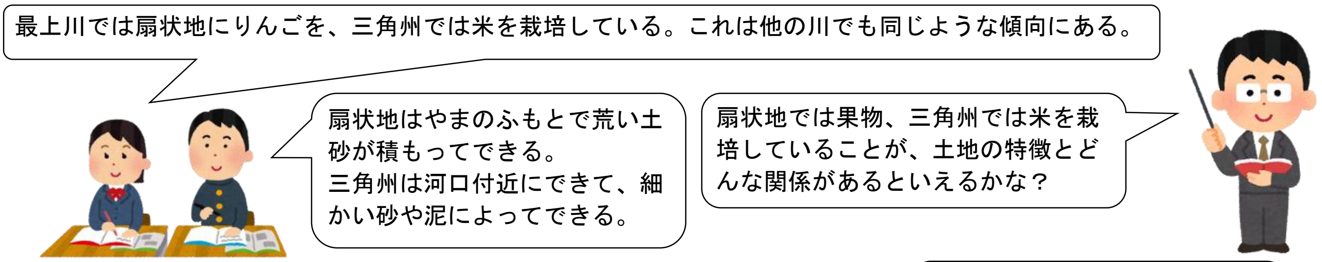
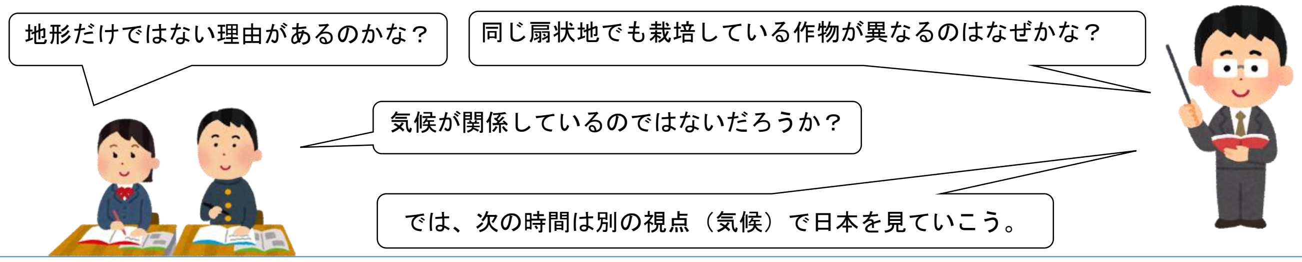
**今日の授業における「目指す子供の姿」を実現するための手立て**

**①パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する**

本時では、前述のパフォーマンス課題を設定することで、扇状地と三角州における農業と土地利用の関係について考察することで日本の地域的特色を見出し、日本の自然環境が抱える課題を踏まえパフォーマンス課題と関連付けて考察できるようにする。

**②子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す**

本時では、本時に至るまでに学習したことを踏まえて、学習した事柄が他の地域でも同様のことが適用できるかを、根拠をもとに説明することができるよう、グループ内での交流において自らの考えの根拠などを提示して課題追究できるようにする。

パフォーマンス課題
「一か月後に、『日本の未来はどうあるべきか？』をテーマにした会議が開かれることになりました。あなたはその会議のメンバーに選ばれた研究者です。日本の地域の特色から現在の日本が抱える課題を踏まえて、日本の未来はあるべき姿について提言をすることになりました。提言に必要な資料や材料をそろえて提言を作成してください。」

本時の課題
扇状地では果物、三角州では米の栽培が多くされているのはなぜだろう？土地の特徴に着目するとどのように説明すればよいだろう？